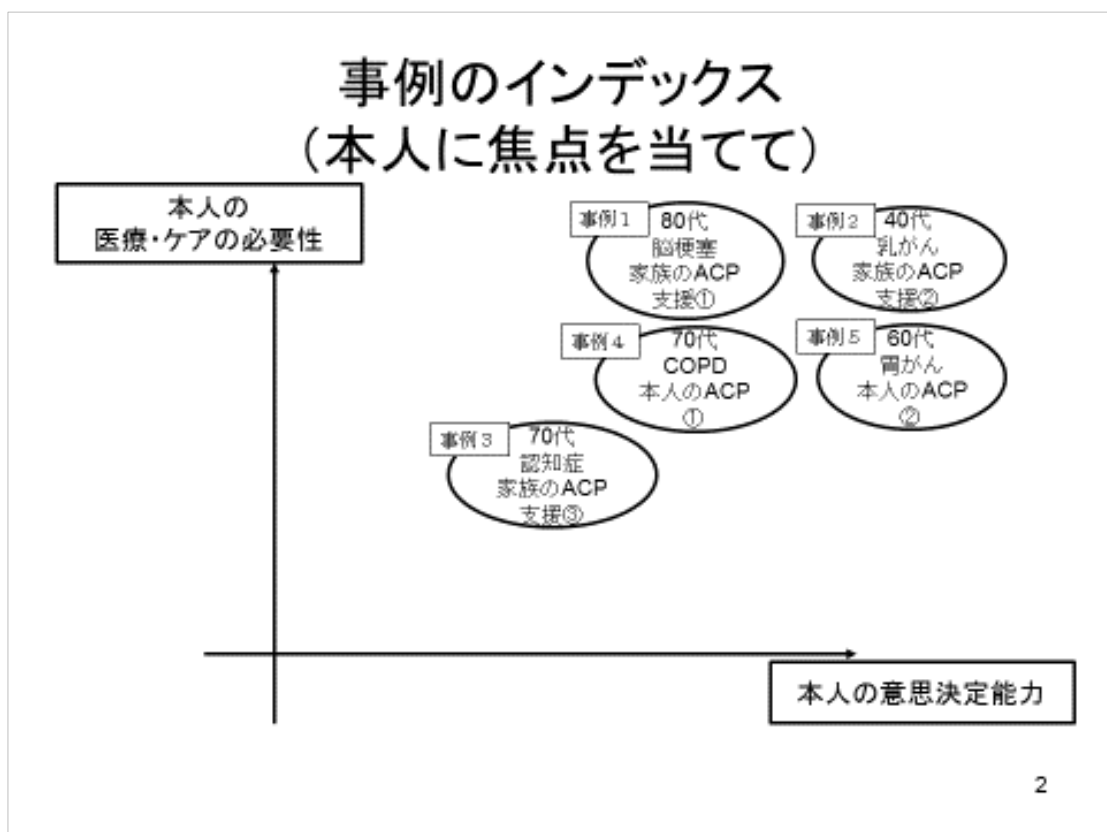
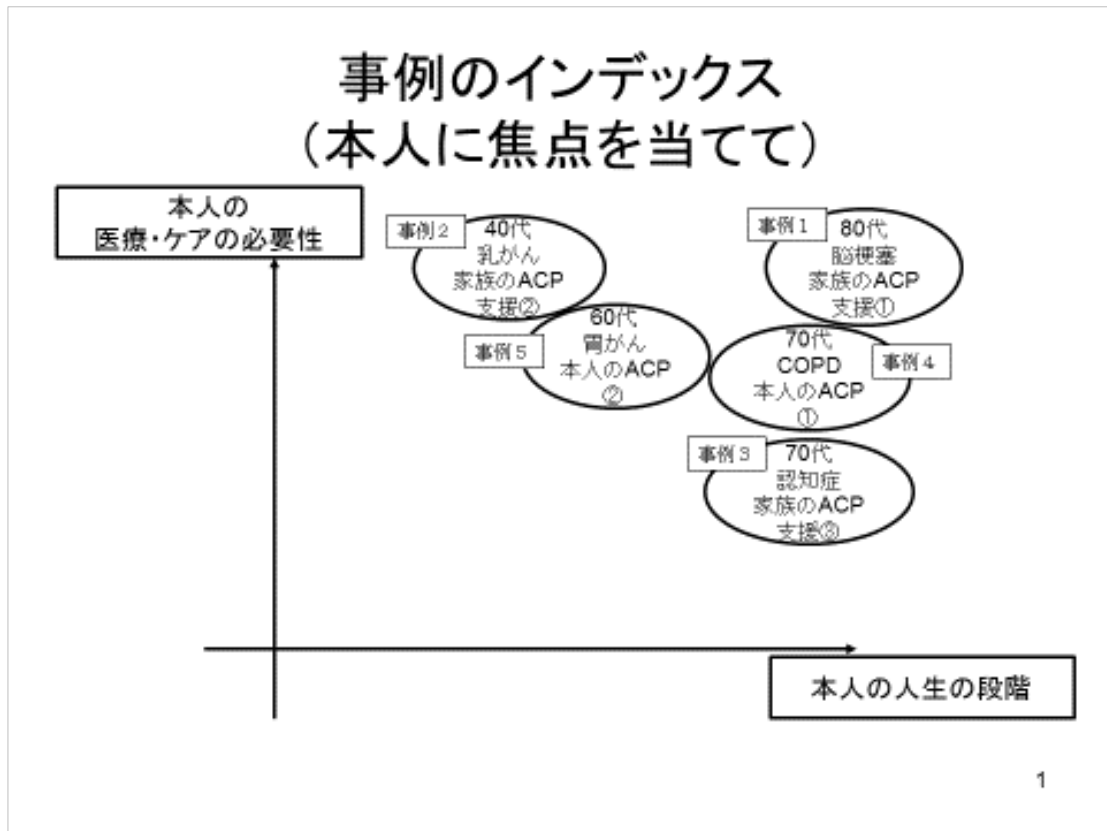


## 普及啓発小冊子に係る事例について



<事例 1 話し合うきっかけが見つからない事例>

◆本人 80歳

◆家族 一人暮らし。子がいるが遠方に在住。配偶者は10年前に他界。

- ・ ■■歳のころに高脂血症、高血圧と診断されたが体調は良く、退職後の趣味を謳歌。
- ・ △年前に、軽い脳梗塞を発症。〇〇に麻痺が残ったが、自力で生活ができるレベル。
- ・ 再度の脳梗塞を起こした場合、更に麻痺が広がり、食事や入浴などが困難になると言われている。

本人

- いま、大きな不自由がないので、どうにかなると思っている。
- 治療のことは、医者に任せておけばいいと思っている。

子

- いつ再発するか分からないため、できるだけ早めに話し合いをしなければと思うが、きっかけが見つからない。

(課題)

- ・ 自力で生活ができなくなった場合の居場所について
- ・ 話し合うきっかけが見つからない
- ・ これからの自分の姿(予後)の把握ができていない

(考えることとの連動キーワード)

<人生のこと>これまで大切にしてきたこと、これから大事にしたいこと、信条、財産をどうしたいか、趣味

<生活と医療のこと>現在の生活を継続するために何をしなければならないのか、再発した場合にどのような医療を受けたいか・受けたくないか、どのような介護を受けたいか

<生命と医療のこと>口から食べられなくなったときの希望、

自分が意思表示できなくなった時自分の代わりに医療や介護について判断してほしい人は誰か、心停止に至った時の心肺蘇生、人工呼吸器の装着について

＜事例2 これからの生活について話し合いができない事例＞

◆本人 40代 女性 会社勤務

◆家族 夫、子と3人暮らし

- ・ 40歳のとき、胸のしこりに気づき受診したところ、乳がん（ステージ2）と診断。〇年間、抗がん剤等による治療を受け、体調は落ち着いていた。
- ・ △年前に左肺への多発転移が見つかり、現在も抗がん剤治療を続けているが、徐々に使用できる抗がん剤がなくなってきているほか、副作用が身体に負担をかけており、治療の継続が難しくなっている。
- ・ 夫は、今後のことについて妻と考えなければならぬと思いはじめた。

本人

- 副作用がつかなく、これ以上良くならないのであれば、治療をやめ、自宅で家族とゆっくり過ごしたい。緩和ケアに移行することを考えている。
- それらの希望を、なかなか家族に話せずにいる。
- 治療をやめた後、自分の身体がどんな状態になるのか不安。

夫

- 本人の意思を尊重したい。しかし、死ぬ想像をしたくないため、これからのことを妻と話し合っていない。
- 治療をやめた後、妻の身体がどんな状態になるのか不安。自分が介護できるか不安。

子

- 少しでも長く生きられるなら、苦しくても治療を続けるべき。母親に死んでほしくない。

（課題）

- ・ 家族の希望（治療継続）と本人の希望（治療をやめ自宅で過ごす）の不一致
- ・ 今後の病状の経過に関する知識について
- ・ ACPはこれまで行っておらず、家族は本人の思いを十分に理解できていない。

（考えることとの連動キーワード）

＜人生のこと＞これから大事にしたいこと

＜生活と医療のこと＞どんな医療を受けたいか・受けたくないか、どこで誰とどのよう暮らしのか

＜生命と医療のこと＞医療における事実認識をどうするか、適切な医療をどう選択するのか、最期までどのよう暮らしたいのか

### <事例3 認知症の親の事例>

- ◆本人 70代 男性 持ち家に一人暮らし
- ◆家族 娘が近所に居住。
  - ・ 〇〇歳のとき、認知症と診断。自宅での療養を希望。
  - ・ 先日玄関で転倒して足を骨折し、救急搬送。
  - ・ 現在、食事やトイレ（時々失禁がある。）は概ね自力でできているが、判断力の低下、会話が難しい時間がでてきている。

本人

- 「近所の友人との関係を大切にしたいので、この地域で過ごしたい」と考え、住み慣れた家で気ままに暮らし続けることを希望し、娘に数年前に伝えた。
- その後、希望は変わっていないが、骨折を機に一人暮らしに自信がなくなっている。

娘

- 一人暮らしが心配なため、施設に入って欲しい。
- 会話が本格的に難しくなる前に、話し合いをしておきたいと思うが、何を話し合うのか分からない。

#### （課題）

- ・ 現状に至るまで話し合うきっかけがつけられなかった
- ・ 現在の状況で何をどのように話し合えばいいのか悩んでいる
- ・ 認知症の進行を視野に入れた話し合いをどのように行うのか（代理決定、事前にできるだけ希望を話し合う）
- ・ 病状の変化（骨折）もあったことから、今一度本人の思いや希望を話し合う必要がある
- ・ 家族と本人の希望の不一致（自宅か施設か）

#### （考えることとの連動キーワード）

<人生のこと>これまで大切にしてきたこと・信条

<生活と医療のこと>食事・トイレ・入浴のこと、現状を維持するためのサービス（リハビリ、デイサービス）をどう考えるか、財産のこと

<生命と医療のこと>自分が意思表示できなくなったとき、自分の代わりに医療やケアについて判断してほしい人はだれか

**<事例 4 本人の希望と適切な医療のすり合わせが難しい事例>**

- ◆ 78歳 女性、専業主婦、夫と持ち家で二人暮らし
- ◆ 子供は2人。それぞれ独立、結婚、共働き
- ◆ 飲酒はしないが喫煙歴は50年以上
  - ・ これまで大きな病気やケガはなかったが、10年ほど前から咳や痰が多くなり、たまに息苦しさもあったので、喫煙量を減らすなどしていた。
  - ・ その後、急に呼吸が苦しくなり動けなくなったので救急搬送され入院し、気管挿管。COPDの診断で酸素吸入。5日後に退院。
  - ・ 医師からは、もっと悪くなればHOTが必要になること。風邪やインフルエンザをきっかけに重度の肺炎から死にいたる可能性もあることを言われ、生活改善を薦められている。

本人

- 今後の人生で、特にやりたいことはない。
- これまでどおり家事をし、夫と暮らし、たまに子供や孫と会い、穏やかに過ごしていきたい。しかし、自分の介護によって夫や子供達に迷惑をかけたくない。
- COPDにより自分は今後どうなっていくのか不安。
- 機械につながれ寝たきりになるのは嫌だが、息ができずに苦しんで死ぬのは嫌。

家族

- 本人の希望を聞いておらず、医療処置については医師の判断に任せている。
- 自宅での療養を希望するなら、かなえてあげたいと思っている。

(課題)

- ・ 本人は明確な希望や思いがあるが、家族と話し合っておらず共有していない。
- ・ 一度決めたことは変えられないと誤解

(考えることとの連動キーワード)

<人生のこと>これから大事にしたいこと

<生活と医療のこと>人工呼吸器の装着について、心停止に至った時の心肺蘇生、どこで過ごしたいか、どんな介護を受けたいか

<生命と医療のこと>医療における事実認識をどうするか、適切な医療をどう選択するのか

**<事例 5 病状の変化に伴い大切なことや考えが変わっていった事例>**

◆60代 男性

◆妻、子供（社会人）と持ち家で三人暮らし

- ・ 昔から、仕事中心な生活を送っている
- ・ 体調の悪さを心配した家族に勧められ、病院に行くと胃がん（ステージ3）との診断。根治は困難であると伝えられる。

本人

○人生で大切にしてきたことは仕事。できるだけ仕事を続けることを希望。家族にも伝えているが、相談せず決めた。

○何かあっても医師の判断に任せるしかないと思っている。

○仕事を休むことになり気分が落ち込み、仕事をやめるべきか心が揺れている。家族からは、仕事を辞めて、治療に専念したらいいのと言われた。

○妻や子供と話している際に、これからどのような時間を過ごしていきたいか考えようと思いはじめた。

（その後、家族と話しあい、仕事は休暇や時短勤務を活用しながら、治療を継続することとした。治療の術がなくなったときは、家族と過ごしたいとの思いから在宅での療養を希望した。）

（課題）

- ・ 本人は明確な希望や思いがあるが、家族と話し合っておらず共有していない。
- ・ 正確な医療情報を把握した上での治療の選択ができていない。
- ・ 治療のつらさ、病状の変化により、本人の考えが何度も揺れ動く。（体調が落ち着いているときに話し合うのがよい）

（考えることとの連動キーワード）

<人生のこと>これまで大事にしてきたこと、これから大事にしたいこと、仕事

<生活と医療のこと>これからどのような生活を望むのか

<生命と医療のこと>医療における事実認識をどうするか、適切な医療をどう選択するのか